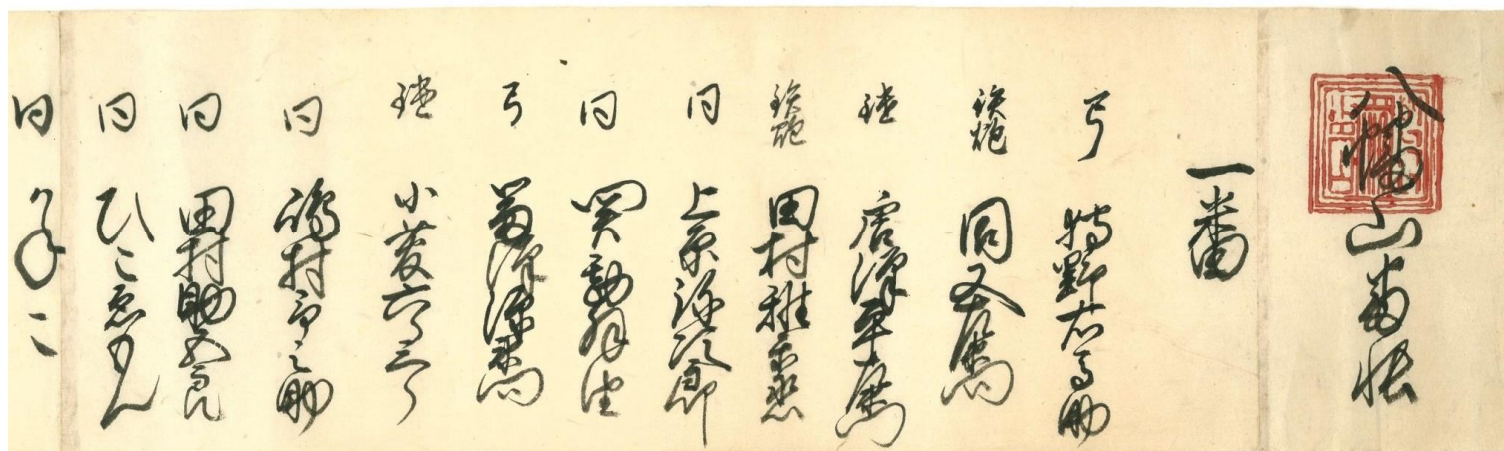




八幡山番帳

天正 16 年(1588)卯月(4 月)26 日

よこおはちまんじょう

北条方との境目にあった横尾八幡城
(現中之条町横尾)の番頭 4 名(富澤豊前守・狩野志摩守・同右馬之助・折田軍兵衛)に真田信之(信幸)が宛てた命令書です。原本は所在不明ながら、この史料は数通残る写しの一つです。吾妻の地侍を 2 番に分け横尾八幡城を守備するよう命じています。1 番衆は鉄炮 14・弓 2・鎗 16 の 32 名、2 番衆は鉄炮 15・鎗 17 の 32 名でした。真田氏が鉄砲を前線に配備していたことがわかります。天正 17 年(1589)12 月、北条氏邦が横尾八幡城を攻めましたが、真田方は防戦し、北条軍を退けました。

富澤久幸家文書 P0905 No.631

八幡山番帳

(天正十六年・一五八八)

《釈文》

(朱印) (真田信幸)

八幡山番帳

一番

同	同	同	同	鎗	弓	同	同	鉄炮	鎗	鉄炮	弓
かねこ	ひこゑもん	田村 助五郎	嶋村 市之助	小菅 六郎三郎	富澤 源右衛門尉	関 勘解由	上原 弥次郎	田村 雅楽丞	唐澤 平左衛門	同 又左衛門尉	狩野 右馬助

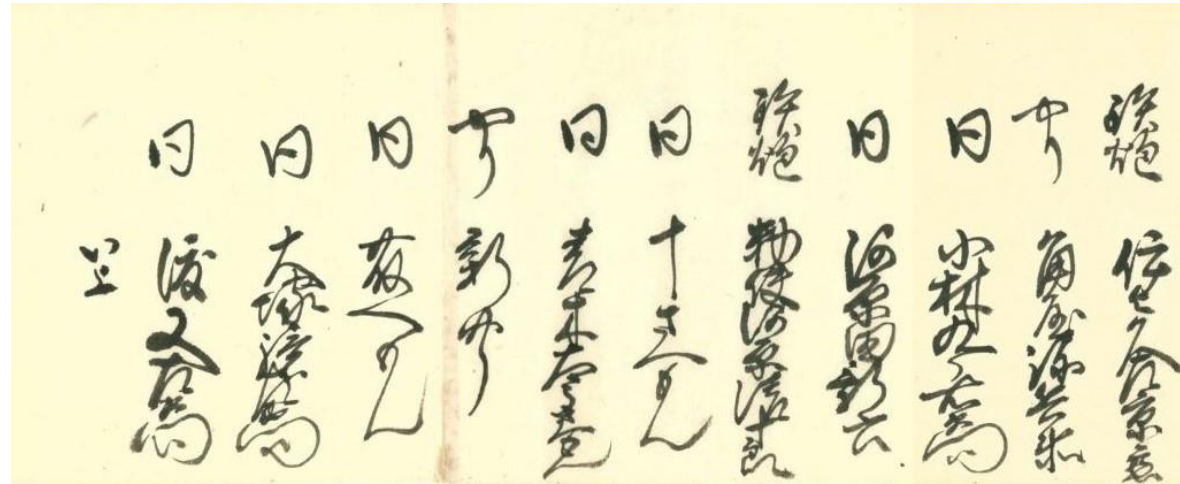
曰 狩野志摩守
 曰 片貝茂右衛門尉
 曰 おり田内蔵助
 曰 すみや七郎へもん
 曰 割田与兵衛
 曰 九郎さへもん
 曰 太郎左衛門
 鐵炮 関又ゑもん
 同 栗原大蔵
 同 小野田市助
 てつはう しほ澤専之丞
 同 今井左近
 やり 細野三郎左衛門
 やり つのた新二郎
 同 市助
 てつはう 唐澤二兵衛
 同 山口織部
 同 富澤与四郎
 同 柳田孫左衛門
 やり 蟻河源四郎
 以上

二番

日 かり 柳田雅樂助
 日 富澤 善内
 中 甚左衛門
 同 番才 新左衛門尉
 日 安原 市左衛門尉
 日 たり 源右衛門尉
 日 荒井 藤右衛門尉
 日 戸塚 源右衛門尉
 日 七郎さへもん
 日 すけ五郎
 日 専 助
 日 鉄炮 けんもち 喜左衛門尉
 日 森田 半衛門尉
 日 九郎右衛門尉
 日 たり 大島 与右衛門尉
 日 青木 孫衛門尉
 日 長井 彦衛門尉
 日 かん田 左衛門尉太
 日 横澤 源助
 日 丸山 新左衛門尉
 日 関口 助三

二番

てつはう おり田 雅樂助
 同 富澤 善内
 やり 甚左衛門
 同 番才 新左衛門尉
 鉄炮 安原 市左衛門尉
 やり たゝみさし代
 同 荒井 藤右衛門尉
 てつはう 戸塚 源右衛門尉
 鐘 七郎さへもん
 同 すけ五郎
 同 専 助
 鉄炮 けんもち 喜左衛門尉
 同 森田 半衛門尉
 やり 九郎右衛門尉
 てつはう 大島 与右衛門尉
 同 青木 孫衛門尉
 同 長井 彦衛門尉
 同 かん田 左衛門尉太
 同 横澤 源助
 鐘 丸山 新左衛門尉
 同 関口 助三



鉄炮	やり	同	同	鉄炮	同	同	同	同	やり	鉄炮
伊与久 左京亮	角屋 弥兵衛	小林 九郎右衛門尉	河原田 新六	勅使河原 清十郎	十さへもん	青木 太郎さへもん	新 四 郎	藤へもん	大塚 孫左衛門尉	渡 又左衛門尉

以上

右之衆、番請取
 渡、慥に銘々其
 上、番普請兵
 伏以下、無油断
 可二相勤一者也、
 仍如レ件、
 天正十六年
 子
 能登守
 卯月廿六日
 奉レ之
 富澤 豊前守殿
 狩野 志摩守殿
 同 右馬助殿
 折田 軍兵衛殿
 折田 宗重殿
 同 右馬助殿
 折田 宗重殿
 折田 宗重殿

右之衆、番請取
 渡、慥に銘々其
 上、番普請兵
 伏以下、無油断
 可二相勤一者也、
 仍如レ件、
 天正十六年
 子
 能登守
 卯月廿六日
 奉レ之
 富澤 豊前守殿
 狩野 志摩守殿
 同 右馬助殿
 折田 軍兵衛殿
 折田 宗重殿
 同 右馬助殿
 折田 宗重殿
 折田 宗重殿